

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070201142		
法人名	医療法人 正周会 水巻共立病院		
事業所名	グループホーム 玄海の森 (西館)		
所在地	〒808-0143 福岡県北九州市若松区大字有毛2933番地6 TEL 093-742-5567		
自己評価作成日	平成29年05月19日	評価結果確定日	平成29年06月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年06月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>森と海に囲まれた豊かな自然の中にあり時には小鳥のさえずりを聞きながらゆったりとした静かな環境で過ごすことができるグループホームです。職員は利用者一人ひとりと向き合いホームの理念である「自分らしくのんびりと共に過ごす豊かな日々」を念頭に、家庭的な雰囲気大切にいつまでも自分らしく、その方らしい暮らしをして頂けるようにサポートしています。また、協力医療機関との連携で安心な介護サービスをご提供いたします。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰にでも目にする事ができるように玄関脇に掲示常に職員が意識しながら支援に繋げておりケアの実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回音楽療法実施その他年に数回ハーモニカ演奏等のボランティア訪問、地域の祇園祭にも参加させて頂いている。行事参加等で繋がりを持つようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての問題を掲げ理解を深めながら色々な情報提供を行う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催ご利用者様家族、区長、包括職員等参加して頂きサービスの取り組み、ご利用者様の生活状況等を報告。意見等議事録に明記しサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題、課題等が起きた場合電話などで連絡を取り指導、助言をお願いし協力得ている。また、運営推進会議を通して事業所の考え方実情をお伝えしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルあり見直しを定期的に行っている。身体拘束をしないケアに関する内部研修を行いスタッフ全員が身体拘束を理解しケアの実践を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内部研修を行いスタッフが学べる機会を作るようにしている。また日々のケアの中で虐待に繋がるようなことがないかスタッフ同士確認するようしておりミーティング等で、振り返るよう話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村にある資料のパンフレット等で情報を共有しており制度について学ぶ機会を作っている。またご利用者様家族よりご相談があった際にご案内できるように資料を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際はご家族へ口頭説明を行い不安、疑問がないかお聞きしその都度説明理解して頂けるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置、ご家族等気軽に相談して頂けるよう関係作りに取り組み意見を伺いながら困ったこと等がないかお尋ねしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い職員同士意見交換、情報収集等話し合う機会を設けており管理者は、職員の意見をもとに業務改善等検討、運営に反映することができるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し過度なストレスや疲労が蓄積することのないよう改善が図れる部分について出来る限り対応、向上心が持てる職場環境作りに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については性別、年齢不問としている。職員の能力を活かすことができるよう行事企画に携わって頂いたり能力向上の為研修等の参加を促している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご利用者様の人権を尊重する言葉かけや接し方についてミーティング話し合いその方らしい生活を継続していくことができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数、経験に合わせ勤務に支障がない限り外部への研修に参加できるようにしている。また疑問、不安なことある際は面談を行いその都度助言、指導をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内等での相談員会議で、情報交換、各施設の課題の意見交換を行いサービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前は、必ずご本人とゆっくり面談できるよう時間を設けご本人様が困惑されないよう簡単な質問にて少しずつ意思、要望が引き出せるように努めている。また体験入居行い安心して入居して頂けるよう配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が望むご本人の暮らしや抱える不安要望等に傾聴する姿勢で取り組みご家族が困っていることを払拭できるよう関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によって必要であろうと考えられるサービスを状況、会話によって見極めサービスの提案ご紹介を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様本位の生活を第一に、どのような生活を望まれているか談話やふれあいの中で共に過ごす時間を大切にし自信を失わず生活して頂けるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日頃の様子心身状態等毎月のお手紙や面会時などにご報告。意見や相談しやすい雰囲気、環境整え信頼関係を築くよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人との面会時間は特になくご家族のご協力を得ながら外出している。また馴染みの場所を訪れる機会をもつことができるよう外出を企画している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で参加できるレクリエーションや行事を企画入居者同士が関わりを持てるよう環境整えコミュニケーションが円滑に図れるようスタッフが橋渡し役となるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にはその後必要なサービスが受けられる調整を行い関係が継続できるよう努めいつでも相談できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の生活歴、コミュニケーションの中での心情の変化、日々の状況が把握できるよう努めている。また、表情や普段の言動等から気付いたことをミーティング等で話し合うようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居開始初期段階からご家族にもご協力得て情報収集をお願いし必要な情報を把握するようにしている。また、日常の会話から得た情報は記録し共有できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活能力、心身状態の変化や日常の行動等を個別に記録、現状を総合的に把握できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族より要望等をお聞きし意向に添えるようミーティング等を通じて現状の確認、助言、意見をもとに介護計画の作成を行っている。また必要と思われる際にはその都度見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況、精神状態などは個別に記録職員間で情報を共有している。またケアの実践はケアチェック表に記入し見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の状態、状況を把握しご家族が対応できない際の病院受診等柔軟な支援、サービス内容に対応できるよう心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、学生の実習の受け入れを行い日々の生活に楽しみを持って頂けるよう支援している。また、隣接施設と連携を図っている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医の確認。通い慣れたかかりつけ医への受診継続を支援している。緊急時等出来る限りご家族の付き添いをお願いしているが、ホーム協力医療機関を希望される方は付き添いサービスを行い医師への報告をしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診、急変時等かかりつけ病院、隣接施設看護師に相談し適切な処置アドバイスが受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご利用者様、ご家族の同意を得て情報提供を行っており定期的に面会に伺い経過、情報交換をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、身体状態の報告を行い現状の把握をして頂いている。病院受診や入院が多くなってきた時点で主治医、ご家族と話し合いを行い可能な限りホームでの生活が継続できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や手当、事故発生時の対応等マニュアルに沿って対応できるようにしており急変に備えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署、設備点検会社の協力を得て実地訓練を行っている。災害、風水害のマニュアルは定期的に見直しを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々ご利用者様に対しての言葉使い言動に注意し接遇や人格の尊重、プライバシー確保について職員同士確認行い意識を深めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定して頂けるよう返答しやすい質問や選択肢を簡単にするなど思いを引き出せるよう心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活スペースを大事にしお一人お一人に希望をお尋ねしたりと出来る限り希望に添えるよう心掛けその方らしい生活ができるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、外出の際衣類選択、化粧を職員として頂きその時に合わせた身だしなみができるよう支援している。また2か月に1度訪問美容にて希望者のみヘアカットをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月のイベントに合わせた行事、誕生日会の時はそれぞれの好みや希望に合わせた食事やおやつ作りを職員と一緒にしており食前後にはテーブルを拭いて頂いたり食器を重ねて頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼等状態に合わせた食事、水分形態で提供している。食事摂取量や水分量も毎食記録、十分な水分量の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。ご自分で行える方は出来る範囲行って頂き出来ないところの援助、状態の確認をしている。夜間は義歯をお預かりし洗浄剤使用口腔内清潔保持に努めている。また、ご希望者のみ歯科往診にて治療、相談している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しご利用者様の排泄パターンの把握、時間毎の誘導を行い、なるべくトイレでの排泄が行えるように心掛けている。状態の変化に合わせてリハビリパンツから布パンツへの転換など行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便の有無を確認、把握に努めている。また体操や歩行等適度な運動、水分補給を心掛けている必要に応じて主治医処方の下剤にて調整を図っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在一日おきの入浴、時間帯はほぼ決定しているがご利用者様の予定、体調等考慮しゆっくりと入浴して頂いている。介助困難な方には二名介助にて危険ないようにしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や希望に合わせて自由に休息を取って頂いている。また、夜間の睡眠、状態の把握を行い夜間の睡眠に妨げがないよう日中の活動への参加を促し睡眠出来るようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の処方内容はいつでも職員が確認することができるよう個人記録にて管理している。服薬時には誤薬ないようにお名前や日付けを読み上げ確認後服薬介助を行うようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯たみや食器の片付け等それぞれの役割を持って頂いている。また行事、散歩や夕食等を行うことで外気に触れる機会を作るようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながら散歩、ドライブや夕食等を計画希望をお聞きし、希望に添うように外出しておりご家族にもお伝えしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族同意のもとお小遣い程度の現金を金庫にてお預かりしている。また外出、お買い物の際は職員介助にて支払いをしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あればいつでも電話をして頂くことができる。お手紙が届いた際は、ご本人へお伝えし目を通して頂き年賀状、暑中見舞いなど出すようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を味わって頂けるように壁面の付け替えや手作りカレンダーを目につく所につけ日にちの確認ができるようにしている。またテレビや音楽の音量調節、室温調節も配慮するようにしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファーや和室があり余暇時間にはお好きな場所で心地よく過ごして頂けるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みある物、使い慣れた家具等を持参頂き居室へ設置、居心地よく過ごして頂けるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアのトイレ、廊下等には、手摺りを設置しており車椅子の方でも安全に移動、移乗して頂けるよう環境作りに配慮している。		